

動物カードを使い、比較語の指導をします。

きりんは くびが ながい。

ぞうは みみが おおきい。

ぞうは あしが ふとい。

かばは あしが みじかい。

くんは みみが ちいさい。

しかは あしが ほそい。

子どもは「ちょっと、ちいさい」とか「ながく ない」と返答する子がいます。

そのとき「ながい」「みじかい」、「おおきい」「ちいさい」、「ふとい」「ほそい」を対にして並べて読みます。

片方をかくして答えさせたり、文を作りながら比較語の指導をしていきます。

その1

カードの「ふゆやすみ」を読みます。

「クリスマスツリー」「サンタクロース」「かがみもち」「おとしだま」

「はつもうで」「たこあげ」「こままわし」「はねつき」「かきぞめ」などの

絵カードをならべます。

それぞれの名前を教えます。

「カード」に名前を書いて名前カードをつくります。

絵カードと名前カードを対応させます。

たとえば

絵カードと名前カードの頭の文字だけ見せて、続く文字を言わせます。

名前カードを読んで、絵カードを探させます。

または絵カードを見せて、名前カードを探させます。

上に絵カードを並べ、下に名前を書いたカードを並べて、対応するものを線で結びます。

その2

からす、きつね、くま、さる、かば、きりん、パンダ、にわたりの絵カードを並べます。

そして「かきくけこ」をさがします。

「か」の横にからす、かば

「き」の横にきりん、きつね

「く」の横にくま、きりんの絵カードをおきます。

「きりんの くびは ながい。」「きりんの ながい くび」「くびの ながい きりん」をリピートさせて「く」のあることに気づかせます。

「け」の横ににわとりの絵カードをおきます。

「にわとりは こけこっこーと なきます。」リピートさせ、「け」のあることに気づかせます。

「こ」の横にさる、パンダ

「おやこの さる」「さるの おやこ」「こどもの パンダ」とリピートさせ、「こ」のあることに気づかせます。

動物の絵カードを見てネーミングします。

「いぬ」「さる」「かば」「ぞう」「にわとり」「しまうま」「ライオン」「はと」「パンダ」等を9枚程度を机に並べていきます。

この中から「あいうえお」のつくのをさがしてと指示します。

子どもも「い」と「う」はさがします。

「ワンワン」「キーキー」「コケッコッコー」「ガオー」と言って今のは何かないと聞きます。

わからなくても「鳴き声」「動物の鳴き声」と教えてあげてください。

犬の鳴き声は「ワンワン」さるの鳴き声は「キーキー」・・・

と子どもに言ってもらいます。

「え」がつくのに気づけば、「あ」も「お」もわかると思います。

1枚のカードに1から9までの数字とシールを1枚ずつ貼ります。

そのカードを使ってこんなことをしています。

「りんごが1こあります。1こもらいました。みんなでなんこですか。」

と問います。

そして数字の1を指差し、「いち」と読み、シールを指差して「に」と読みます。

みんなで「2(に)こ」と話します。

「りんごが2こあります。1こもらいました。みんなでなんこですか。」

と問います。

そして、数字の2を指差し、「に」と読み、シールを指差して「さん」と読みます。

みんなで「3(さん)こ」と話します。

発達の課題に、経験を話すというのがあります。

遠足で動物園に行ったのなら、  
動物の絵カードを用意しておきます。  
ぞうやかば、さるなどの絵カードを見ながら、  
「このどうぶつは、見たかな？」  
と問います。  
「見た」  
と返事が返ってきたら、その動物の名前を書きます。  
「大きかった？」「何をしていた？」と問いながら、子どもの返事を書いていきます。  
「どうぶつえんにいきました。  
ぞうをみました。  
大きかったです。  
あるいていました。」  
書いたものを読めば、経験を話しにくい子ども表現できたことになります。  
教室ではこのような方法を繰り返しています

かさの絵カードを並べます。  
「おおきい」「ちいさい」に分けます。  
「おおきい かさ」と「ちいさい かさ」と表現します。  
同じ物で大きさが見てわかるように描かれた絵カードを並べていきます  
「おおきい ぼうし」と「ちいさい ぼうし」  
「おおきい くつ」と「ちいさい くつ」  
.....  
次は違うもので大きさが見てわかるように描かれた絵カードを並べます。  
「おおきい おにぎり」と「ちいさい たね」  
「おおきい ぞう」と「ちいさい あり」  
.....  
そして、ほぼ同じ大きさにかかれた絵カードを並べます。  
ここではイメージを問います。  
「本当はどっちが大きいかな」  
.....

りんごの絵カードを用意します。  
3個のりんごと2個のりんごを見せて  
「どっちがおおい？」と聞きます。

次に

「いくつちがう？」と聞きます。

3個のりんごと2個のりんごの絵カードを縦にならべて、比べます。

1こちがう

ことを確かめます。

そして、

3このりんごのほうが1こおおい。

2このりんごのほうが1こすくない。

と教えます。

りんごの絵カードを使い、ほかの数でも確かめます。

「おおきい」と「ちいさい」、「ながい」と「みじかい」、「はやい」と「おそい」

「たかい」と「ひくい」、「おおい」と「すくない」など

2つのものを比較することばです。

くつの絵カードを用意し、くつのお話をしていきます。

さんのくつは何色？

くんのくつにはどんな絵が描いてあるの？

雨が降るとちがうのをはくよね。なんて言うのかな？・・・

等聞いていきます。

次にお父さんと革靴の絵カードを出します。

お父さんのくつとちがうところはどこかな？

と問います。

答えられなければ、「おおきい くつ」「ちいさい くつ」と教えます。

そして、絵カードを出して「おおきい」「ちいさい」を表現につかっていきます。

力比べをします。

と言って、子どもと先生の絵カードを並べます。

「先生が子どもをひっぱる。」

「子どもを先生がひっぱる。」

「子どもをひっぱるのは先生です。」

と言うときはどちらに動いていきますか？

と問い、絵カードを動かします。

次に先生とぞうの絵カードを並べます。

「ぞうが先生をひっぱる。」

「先生をぞうがひっぱる。」

「先生をひっぱるのはぞうです。」

と言うときはどちらに動いていきますか？

と問い、絵カードを子どもに動かすように指示します。

手をあらっているのはどれですか？

顔をあらっているのはどれですか？

コップをあらっているのはどれですか？

と問い、子どもに指差しをさせます。

つぎに、手をどうしていますか？

顔をどうしていますか？

コップをどうしていますか？

と問い、「あらっています」「あらう」と言う動きのことばを答えさせます。

つづいて「なにをあらっていますか？」

と問い、あらっている部位、ものの名前を答えさせます。

一枚の絵カードを指さし、

「何をしていますか？」

と問い、答えを待ちます。

りんごの絵カードを見て

「りんご」について話をします。

「色は」「形は」「味は」などを話します。

そして文で表現をします。

「りんごは あかい。」

「りんごは まるい。」

「りんごは おいしい。」

つぎに「これはどんなりんごですか？」と問います。

答え方のモデルとして

これは「あかい りんご」です。  
と教えます。  
できれば書いて見せてあげればいい。  
そして「これはどんなりんごですか?」と問います。  
これは「まるい りんご」です。  
これは「おいしい りんご」です。  
モデルをまねして、答えを促します。

場所の絵カードを見せます。  
どこにいきますか?  
と問います。  
やまに いきます。  
2 かいに いきます。  
ゆうえんちに いきます。  
うみに いきます。  
いえに いきます。  
びょういんに いきます。  
そして次に、同じ絵カードを見せて  
「いきます」を使いません。  
よく聞いて答えてね。  
と話し、問います。  
どこにのぼりますか?  
どこにあそびにいきますか?  
どこにかえりますか?  
どこにいそぎますか?  
問いに対応する答えを求めます。

もう一度絵カードを見せて、お話ししてくださいと指示します。  
おとこの ひとが やまに のぼります。  
と例を示すのもいいです。  
文を書いたカードを読ませてあげるのもいいです。  
読んだ後、だれが? どこに? どうしますか?と問い直すのもいいです。  
そして、もう一度文で表現させてあげてください。

6歳のころになると、そのものの用途を説明し、一般化した表現ができるようになります。

「えんぴつ」の絵カードを見せて、「これは何ですか」「お話して」と問います。

「色鉛筆を買ってもらった」

「字を書く」

と答える子がいます。

「かさ」の絵カードを見せて、同じように問うと、

「青いのをもってる」

「雨の日にさす」

「ぬれないようにさす」

と答える子がいます。

「えんぴつは字を書くものです。」

「かさは雨にぬれないようにさすものです。」

経験だけを答える子に、用途やより一般化した答えを教え、表現するように教えます。

ほかの絵カードでも同じように一般化するように促します。

先に「えんぴつ」や「かさ」で教えた表現法で次のものを説明できるように指導します。

「クレヨン」「けしゴム」「ながぐつ」「ぼうし」の絵カードを使います。

「えんぴつは じを かく ものです。」

文章カードを見せて「えんぴつ」を「クレヨン」に置き換えて、読みます。

「クレヨン」は じを かく ものです。

字もかくけれど、何かをかくときに使うよね。

と問います。

答えが返ってこなければ、

「幼稚園で何かをかくよね」

と問い、

「えをかいた」という経験を思い出させます。

それで、

「クレヨンは えを かく ものです。」

と一般化した表現をしていきます。

同じように

「けしゴムは じを けす ものです。」

「ながぐつは あしを ぬらさない ものです。」

「ぼうしは あたまに かぶる ものです。」

と表現していきます。

同じ時期に、動作絵カードも使い始めます。

「あるく」「はしる」「すわる」「のる」「たべる」などの動作絵カードを使います。

絵カードを見せて

「なにをしていますか？」

と問います。

子どもが

「あるいてる」

と答えます。

「そう、あるいているね。」

「じゃ、だれがあるいているのかな。」

と問います。

答えが返ってこなければ、

「男の子かな、女の子かな、」

と問い、答えを促します。

次は文で表現させます。

「だれが？」

と問い、「が」の文字をおきます。

「おとこのこ」と答えるとすぐに、

「が」を指差し、読みます。

「何をしていますか？」

と問い、

「あるいて いる。」

と答えるのを待ちます。

「おとこのこが あるいて いる。」といった文にして復唱させます。

単語カードに書いて、復唱しやすいようにします。

次の段階では、先の動作絵カードを使って、5W1Hをつけて、多語文にしていきます。

「どこへ」はしていますか？

「だれが」あるいていますか？

「なにを」たべていますか？

「どこで」あそんでいますか？



文にしやすいように問いに対応した「助詞」を置いて、表現させます。

次は、「たつ」と「すわる」「きる」「かぶる」「はく」と「ぬぐ」「とめる」と「はずす」といった配列絵カードを使います。

どこにすわりますか？

どこからたちますか？

と問い、文に表現できたら、必ず逆からも問います。

いすにどうしますか？

いすからどうしていますか？

と問い、文に表現させます。

絵カードにはいろんな絵カードがあります。

一つのものを描いた絵カード。

これは単語構音検査につかいます。

ネーミングしながら、語彙数を確かめることができます。

色を聞くことでそのものの属性をどれだけことばにできるか確かめることができます。

またその絵カードの間に助詞をおくと、文章構音検査にも使えます。

語連鎖の練習にも使えます。

食べものの絵カードを並べて、

「野菜をください」

「果物をください」

といえ、上位概念を確かめることができます。

また並べた絵カードの名前を二つ三つ言って、子どもにとらせると記銘力を確かめることもできます。

大きさ比べをしたり、長さ比べをすることで、「おおきい、ちいさい」「ながい、みじかい」といった比較語を習得しているか、

「車のタイヤの数はいくつ」

と問うことで、視点を変えて見られるか、

など

名前が言えるかだけでなく、一人ひとりの子どもの発達を確かめることができます。

絵カードを見せて、

「なにをしていますか？」

と問います。

「てを あらっています。」

と答えるでしょう。

「で」と「を」のひらがな文字を見せて、

「きょうは、これを使って文作りをします。

なにで てをあらっていますか？」

と問います。

「みずで」

と答えたら

「文にしてみるよ。

てを みずで あらっています。

みずで てを あらっています。」

「で」と「を」の文字を見せながら文を作ります。

このあと、ほかの絵カードをつかって、練習します。

子どもがテレビを見ている絵カードを用意します。

「この子は何をしていますか？」

と聞きます。

「テレビ みてる」

と答えが返ってきました。

「この前はそのまま書いたね。

きょうはもう一つ勉強するよ。」

「なにを」と聞かれれば、「～を」をつけてね。

「テレビ みてる」でもわかりますが、

「なにをしていますか」と聞いたから、

「てれびを みてる」と答えてね。

このあと「何を」の問いに答える練習をします。

いくつかの絵カードを見せて、

「なにを していますか？」と問い

「かみを きってる」

「みかんを たべてる」

「てを あらってる」と答える練習をします。

そして原稿用紙に書きます。

「赤ちゃんを抱いて、かさを指しているお母さんが、女の子に  
「わすれものよ」

と声をかけています。」

と説明できる場面絵カードを使って、表現のし方を指導します。

子どもに表現してほしい一つ以外はかくしてしまいます。

はじめは、天気とかさをさしている女の人以外はかくします。

そして

「だれが、何をしていますか」

と問います。

「女の人がかさをさしています。」

と答えが返ってきます。

女の人が抱いている赤ちゃんのところまで子どもに見せます。

そして、

「何をしていますか」

と問います。

「女の人がかさをさしています。赤ちゃんを抱いています。」

「女の人が赤ちゃんをだいて、かさをさしています。」

「女の人がかさをさして、赤ちゃんを抱いています。」

と答える子どもに、次のような表現の仕方を教えます。

かさをさしている女の人が、赤ちゃんをだいています。

赤ちゃんをだいている女の人が、かさをさしています。」

この表現のし方を使って

女の人がかばんをもっているところまで子どもに見せます。

「赤ちゃんをだいて、かさをさしている女の人が、かばんをもっています。」

次に、女の子に声をかけているところまで子どもに見せます。

「赤ちゃんをだいて、かさをさしている女の人が、

「かばんよ」

と女の子をよんでいます。」

一度に見せたら、表現しにくい子どもがいます。

どこに視点を置いて、表現すればいいのかわからないのでしょう。

場面絵カードには、情報がありすぎて、何から表現すればいいのかわからないのでしょ  
う。

場面絵カードを使い、かくしておく方法 - 一つずつ表現しながら、見せていく方法 - は  
そんな子どもに効果的です。

車の絵カードを見せて

「タイヤはいくつある？」

と問うことがあります。

車がイメージできていれば

「4つ」「4本」

と答えます。

しかし、

「2つ」「2本」

と見えるタイヤを数え、答える子がいます。

これは、イメージができていないか、見えるタイヤの数はいくつかと考えたかどちらかです。

「この向こう側にもタイヤは2本あるよ」

と、ことばによる指示で修正させます。

たまご - おたまじゃくしの絵カードを見せて、

「この後どうなりますか？」

と問い、答えを待ちます。

答えが返ってこなければ、かえるの絵カードを見せて

「かえるになります」

と教えます。

「たまごからおたまじゃくし、おたまじゃくしからかえるになるよ」

ともう一度確認します。

「たまごとかえるの間は何と言うんだっけ？」

と問います。

りんごの絵カードを机の上において、

「りんごはどこにありますか」

答えを待ちます。

答えが返ってこなければ、

「りんごは机の上にあります」

と言って、リピートさせます。

次にはりんごの絵カードを机の下に置いたり、筆箱の左側に置いたりして、表現させます。

こうして、位置を表すことばの習得を図ります

男の子が転んでいる絵カードと傷テープを貼っている絵カードを用意します。  
1枚ずつ、お話ししてもらいます。  
その後、一つの文にしてと指示します。  
「転んでけがをしたので、傷テープを貼りました。」  
「転んでけがをしたから、傷テープを貼りました。」  
このあと、ドアを開けて外に出かける絵カードや掃除をしている絵カードを使い、理由を想像して文で表現します。

食事をしている絵カードと歯磨きをしている絵カードを見せます。  
「何をしていますか？」  
と問います。  
「みんなで ゆうはんを たべています。」  
「はを みがいて います。」  
「～と」「～て」「のあとに」「そして」「そのあと」  
などの、つなぐことばを教えます。  
つなぐことばを使って、文を作ります。

「みんなで ゆうはんを たべています。そのあと、はを みがきます。」

聞き取りの弱い子どもに、一音を聞き取り、答えることをねらいに取り組みます。  
場面絵カードで質問し、  
はじめは場所を答えさせます。

次は「で あそびます。」「へ いきます。」「に おきます。」と書いた単語カードも見せて、問います。  
子どもは問いに対応した単語カードを選び、場所をつけて答えます。

そして「で」「へ」「に」と書いた文字カードを見せて、問います。  
子どもは問いに対応した文字カードを選び、場所とどうするのかをつけて答えます。

念のために、「あそびます」「いきます」「おきます」と書いた単語カードを見せて、問います。

子どもは問いに対応した単語カードを選び、場所と「で」「へ」「に」をつけて答えます。

理解言語はあるのに、あまり自分から話さない子に絵カードを使いながら、話しやすいように指導します。

#### その1 答えを選択させる

例1 りんご、みかん、いちごの絵カードを見せて

「この中で、どれがすき？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば「・・・が好きか？」と問い直し、返事を待ちます。

例2 家族の絵カードを並べて、「きょうは誰ときたの？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば「・・・と来たの？」と問い直し、返事を待ちます。

例3 「ことばの教室に電車で来たの？自動車で来たの？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば「・・・で来たの？」と問い直し、返事を待ちます。

#### その2 絵カードを見せて、「はい」「いいえ」を答え、想起させる。

運動会が終わったところに

玉入れやつなひき、徒競走、リレーの絵カードを見せて「こんなのした？」と聞きます。

絵カードの一枚を指させば、「・・・をしたの？」と問い直し、返事を待ちます。

#### その3 絵カードを見せて、お話を作り、モデルを示しながら、想起させる、模倣させる。

遠足が終わったところに

遠足に行く子ども、お弁当、水筒、おやつ絵カードを一枚ずつ見せて、文を作ります。

えんそくにいきます。

おべんとうをもっていきます。

すいとうをもっていきます。

おやつをもっていきます。

バスでいきます。

どうぶつえんにいきます。

どうぶつえんには、ぞうがいます。

.....

と文を書きます。

そのあとに

「・・・君は遠足に何を持っていったの？」

「・・・君は何に乗っていったの？どこに行ったの？」

「そこに、なにがあったの？なにがいたの？」

と聞いて、返事を待ちます。

書いた文がありますから、返事をしやすくなります。

園児用に、入学式後の学校生活の流れを絵カードに描いたことがあります。

不安傾向のある子どもに、卒園前にこれを使って、指導します。

教科書やノート、筆箱をランドセルに入れている場面、

給食を食べている場面

遠足の場面

梅雨になり、傘をさして登校する場面、

水泳学習の場面

などが一枚の画用紙に描いてあります。

場面絵カードを提示し、

「何をしていますか？」

と問います。

女の子が、切符を買って電車に乗ろうとしている場面の絵カードです。

「何を買っていますか？」

「切符をどうしているの？」

「だれが切符を買っていますか？」

と問います。

こたえたことばを書きだし、「が」「を」の助詞をならべて、文をつくります。

切符 買っています 女の子 が を

女の子 が 切符 を 買っています。

この後、電車を指差して

「なぜ切符を買っているの？」

と問います。

「女の子が 切符を 買っています。電車に 乗るためです。」

「くつを ぬいでいる」絵カードのあとに「くつを はいている」絵カードを並べると、動きがでます。

靴をはいていることを理解しやすいです。

逆に並べれば、靴をぬいでいることを理解しやすいです。

同じように、

「窓をあける」「窓をしめる」

「服を脱ぐ」「服を着る」

「ボタンをとめる」「ボタンをはずす」

「ゴミを捨てる」「ゴミを拾う」

の絵カードも並べると、動きがで、理解しやすいです。

絵カードを机に並べます。

「りんご、いちご、みかんをください。」と手を出します。

子どもの短期記憶を確かめます。

その後、「りんごといちごとみかんをまとめると何というかな？」

と問い、上位概念を確かめます。

もう一度絵カードを戻し、

「くだものをください。」と手を出します。

子どもの理解を確実にしていきます

はじめに、雪がふっている絵カードを見せて、

「天気はとうですか？」

と問います。

「天気は雪です。」

「雪がふっています。」

つづいて、ストーブにあたる絵カードを見せて、

「何をしていますか？」

と問います。

「ストーブをつけています。」



「ストーブにあたっています。」  
二つの文をつなぐことばとして、「けれども」「それで」を提示し、  
「どちらでつないだらいいかな？」と問います。